

1.単元の目標と単元構成

目 標	・日本の工業生産や、生産や輸送の費用、商品の価格の決まり方について関心をもって意欲的に調べ、工業製品を生産する仕事の大切さを指摘しようとする態度をはぐくむ。 ・工業生産に携わる人々の生産を高める工夫・努力や、生産や輸送に関しての費用や商品の価格の決まり方、工業生産と貿易・運輸のはたらきとの関わりについて考えさせる。 ・工業生産に関する写真や地図、統計などの資料を、目的に合わせて収集・選択し、的確に読み取ることができるとともに、これからの工業のあり方について考えをまとめて、わかりやすく表現することができるようにする。 ・工業がさかんな地域の様子や、日本の工業の現状をとらえ、そこにある課題について理解させる。
--------	---

(1)自動車会社をたずねて (12時間)

- ①自動車づくりにはげむ人々
 - ・自動車工場へ見学に行く
 - ・自動車づくりのくふうを調べる
 - ・職場環境のくふうを調べる
 - ・関連工場について調べる
- ②自動車がとどくまで
 - ・輸送の方法について調べる
- ③これからの自動車づくり
 - ・要望(ニーズ)について考える
 - ・環境にやさしい自動車づくりについて考える

(2)世界とつながる自動車 (3時間)

- ①世界へ輸出される日本の自動車
 - ・自動車輸出や海外生産から世界との関わりを調べる
- ②日本の貿易の特色
 - ・輸入品や輸出品を比較して考える

(3)工業の今と未来(8時間)

- ①日本の工業の特色を考えよう
 - ・工業製品を仲間分けする
 - ・工業がさかんな地域を調べる
- ②町工場の技術が世界へ
 - ・町工場について調べる
- ③これからの工業生産
 - ・中小工場について調べる
 - ・心を豊かにする工業について調べ、これからの工業生産のあり方について考える

2. 指導計画作成上の工夫と留意点

(1)構成と総合的な学習との関連について

学習指導要領(社会・5年)の内容(3)では、工業製品について、工業地域の分布、工業生産に従事している人々の工夫や努力、貿易や運輸について取り上げている。

本単元は次の三つの小単元に分け、順番に学習展開することで知識理解が深められるようにした。①まず、自動車が生産される仕組みについて、調べながら学習を進める。②次に、生産されたものがどこにどのように運ばれ使われていくのかをつなげて考える。③最後に、日本の工業の現状を知り、これからの工業生産について考えていく。①→②→③の構成になっており、③では日本全体から地域に絞って考えを深めていけるように留意した。ここでは、地域の工場見学などに活動を広げ、工業生産を自分たちの生活に結び付けて考えることができるように工夫すれば、学習効果も高まる。総合的な学習と関連させて、地域の工業生産の現状と未来について考えることで、自分たちの地域を知り、地域の一員としての自覚や誇りが生まれてくると考えられる。

(2)社会科見学実施上の留意点

社会科見学（本単元では自動車工場の見学）は、学習してきた内容を実際に自分の目で確かめることによって、理解を深めたり考えを広げたりすることができる。しかし、ただ単に見学するだけでは学習効果が半減するので、以下の点に留意したい。

①工場見学の前に必ず事前学習をし、自動車づくりのわからないことや疑問に思ったことについて整理する。

②工場の広さ、立地条件など、次につながる学習も意識して、情報を集められるような手立てを考える。

特に、自動車工場（大工場）は、ロボットが多数動いている。ロボットの役割と人間の作業についての関係性を考えることで、工業の本質が理解できる。見学で見たことや気づいたことを作業工程の写真で振り返りながら、自動車工場のはたらきについて考えをまとめることができるようにした。

(3)資料活用の留意点

自動車づくりの工程は、企業のホームペ

ージにアクセスすることで容易に情報が手に入る。ビデオや写真も含めた視聴覚教材を活用した学習によって、工場見学への意欲を喚起できる。また、自動車は、自動車工場と関連工場が互いに決められた計画に基づいて生産している。工場どうしのつながりに目を向け、部品を作る工場で働く人の工夫や努力についても考える展開にした。

なお、学習を通して、グラフを読み取る力を養うことも重視されている。変化の著しい部分に目を向け、時代の変遷によって日本の工業がどのように発展してきたのかを知る手がかりとしたい。工業のさかんところについての学習では、グラフを読み取ることで地域における工業の特色をつかみ、自分たちの住む都道府県の工業に目を向けさせることも可能であろう。

(4)地図・地球儀の活用について

教科書中の地球儀と地図の活用についての囲み記事があれば、学ぶためのツールとして捉え、確実に技能を修得して、いろいろな場面で積極的に活用したい。

工業生産は、諸外国とのつながりが極めて深い。地図や地球儀を活用して、原料や身のまわりの工業製品の輸入先を確認したり、日本で生産された製品がどこに輸出されているのかを視覚的に把握したりすることで、グローバル社会における日本の工業生産のあり方について考えることができる。

(5)環境教育・福祉教育の視点

本単元中の小単元「これからの自動車づくり」「これからの工業生産」では、環境面・福祉面について重点的に取り上げたい。前者は、工業製品についての工夫、後者は工業生産に従事する人たちのアイデアや努力を中心に扱う。

後者の環境への配慮は、ごみの軽減や分別促進であり、前学年で学習したことを振り返りながら学習を進めたい。一連の学習のまとめとして、環境面や福祉面を重視した未来の工業や工業製品についてパンフレットにまとめたり、ポスターセッションにしたりするなど、表現活動が深まるような学習が展開できるようにする。

3. 展開例

(3) 工業の今と未来【8時間】

小単元の目標 身のまわりの工業製品調べから、今の工業生産に興味をもち日本の工業の特色をとらえ、中小工場で働く人の工夫や努力を調べるとともに、これからの工業生産やものづくりについて考え、その発展に期待をよせながら、パンフレットにまとめることができるようにする。

過程	ねらい	主な学習活動と内容	□留意点 ●学習資料 < >評価
つかむ	◆身のまわりの工業製品とわたしたちのくらしとの関わりに気づく。(1)	①わたしたちの身のまわりには、どんな工業製品があるか、広告のちらしを切り抜いて、工業の種類別に分けてみる。気づいたことを発表する。 - 身のまわりの工業製品調べ - 日本の工業生産額の変化	□作業を通して、わたしたちの生活は、多くの工業製品に囲まれていることに気づかせる。 □機械だけでなく、衣類、文具、加工食品も工業製品であることに気づかせる。 ●日本の工業生産額の変化の円グラフ <自分たちの生活と工業との関わりをとらえようとしている>【関・意・態】
	◆「MADE IN ○」を調べ、日本の工業の特色について、学習問題をつくる。(1)	②前時までの学習を振り返りながら、工業製品のふるさとを調べる。 「MADE IN ○○」と書かれたものを探す。 - 学習問題の設定 - 学習問題に対する予想 - 予想の発表と吟味 - 学習計画の検討	□調べることを通して、どの国で工業製品が作られたのかに気づかせる。 □例えば、「MADE IN CHINA」「MADE IN THAILAND」は、それぞれどこで作られたものかを考えさせる。 <日本の工業生産の特色について、興味をもって調べようとしている>【関・意・態】
調べる	◆日本のどの地域で、どんな工業がさかんかをグラフや地図の読み取りを通して気づく。(1)	③日本のどの地域に、どんな工業がさかんなのか、グラフや地図から気づいたことを発表する。 - 主な工業地帯と工業地域の確認 - 工業のさかんな地域の立地条件 - 気づいたことの発表 - 自分の住む地域は、どんな工業がさかんか	□工業地域・工業地帯の名称だけでなく、その地域で何が主に作られているか、また海沿いに工業地域が多い理由について、考えさせる。 ●日本の工業のさかんな所と生産額に関する地図、グラフ <日本の工業の特色や工業のさかんな地域の立地条件を考えている>【思・判・表】

◆町工場では、何がどのようにして作られているのかを調べ、働いている人の工夫や努力を考える。

(1)

◆中小工場と大工場の比較から、中小工場が大きな役割を果たしていることに気づく。

(1)

◆学習問題について調べてきたことをもとに、これからの工業生産について考える。

(1)

◆心を豊かにする工業について調べ、これまでの学習を振り返って、パンフレットにまとめる。

(2)

④町工場を見学する。

○見学したことをまとめ、わかったこと、気づいたこと、疑問に思ったことを話し合う。

- ・意見の交換、疑問点の整理
- ・手紙や電話 F A X などによる調べ学習
- ・「工場で働く人の話」から、働く人の工夫や努力について知る。

⑤中小工場と大工場を比べながら、さかんな工業の種類を調べ、また工場数、労働者数、生産額などの割合を見て、気づいたことを発表し合う。

- ・中小工場と大工場にしめる工業の割合
- ・工場数、労働者数、生産額の割合の比較
- ・工場マンションの様子など

⑥これからはどのような工業生産を目指していけばよいのかをみんなで話し合う。

- ・どんな観点でものづくりをしているのか。
- ・環境や資源・人にやさしい工業を考える必要がある。
- (アイデアを生かした商品づくり・働く人にやさしい仕事場など)

⑦心を豊かにする工業が近年、増えてきていることを知り、どんな生産の工夫があるかを調べてまとめる。

- ・南部鉄器について調べる。
- ・ロボットや楽器について調べる。

□どんなものを作っているのか、しっかり見て、聞いて、嗅いで、感じて、考えるように促す。

□見学してわかったことをまとめ、整理する。

□気づいたことや疑問に思ったことを発表し、もう一度伺って話を聞いたり、手紙や電話などで確認したりして調べることができるようにする。

＜町工場で作られているものを知り、働く人の工夫や努力に関心をもっている＞【関・意・態】

□日本の工場の殆どが中小工場で、生産額は大工場とほぼ同じであることを押さえさせる。

□中小工場の役割の大きさに気づかせる。

●大工場の生産額にしめるそれぞれの工業の割合

●中小工場の生産額にしめるそれぞれの工業の割合 など
＜資料の内容を関連づけて、日本の工業の特色を考えている＞【思・判・表】

□これからの日本はどんな工業を目指していけばよいのか、どんな観点でものづくりを進めていけばよいのかを考えさせる。

●身近な地域の様々な工業製品の写真

●環境にやさしくて便利なふろしき

●スローフードについて

●東大阪の夢「まいど1号」
＜様々な考え方でアイデアが生かされていることをとらえている＞【知・理】

□心を豊かにする工業を調べ、それが様々な分野で行われていることを理解させる。

＜日本の工業の特色をとらえ、今後の工業について自分の考えを整理して、パンフレットに表している＞【思・判・表】